



▲ 佐世保市議会との意見交換会

長崎県佐世保市は、平成17年、18年にかけて4町と合併。

新しい佐世保市を実現するため、市民を主役とした「市民第一主義」を市政運営の基調とし、元気で活力あふれる新市の創造に取り組んでいます。

福岡県福津市は、平成17年1月、2町が合併。

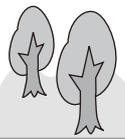
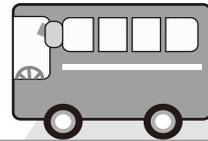
「立ち上がった地域力」を基調に、地方分権ならぬ地域分権を掲げ、地域の行政は自分たちが決定し、その責任も自分たちが負うという行政システムを構築、市民参画による日本のまちづくりを目指しています。

議会関係については、両市議会とも会派制を導入し、スムーズな議会運営と活力ある議会を目指しています。政務調査費は会派別研修会、勉強会などに生かされているとのこと。

先進両市に学んだことを本市議会の検討課題に生かしていきたいと思えます。

議会運営委員会

視察



総務常任委員会

三重県伊賀市では、合併協議のなかで、市民が主役となった自治を実現するため、自治基本条例を検討し、現在施行されています。このような形での条例制定は、伊賀市が全国で最初のこと。

- ① 議会報告会
 - ② 議員の質問に対する市長などの反問権
 - ③ 市民の要請に応じたの出前講座
- などを定めています。

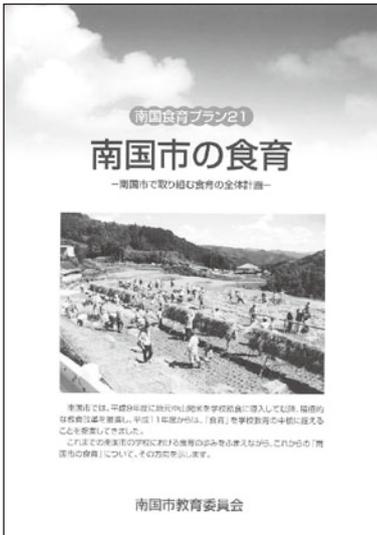


▲ 伊賀市で自治基本条例を研修

岐阜県多治見市では、特色あるまちづくりの視点での市政基本条例、総合計画、行政改革、構造改革特区の研修でした。

「自治体の憲法ともいえるべき市政基本条例の出発点は、平成8年頃、財政状況が悪化したことによる財政改革であった。情報を市民に知ってもらい、意見をいただく。それが市民参加、住民自治です」との説明が印象に残りました。

自治基本条例づくりが各地で進んでおり、豊後大野市でも策定に取りかかっています。適切な対応が求められています。



※その他視察先
 広島県尾道市
 『幼保一元化』

高知県南国市では、教育改革の柱「知育・徳育・体育」の3領域に「食育」を取り入れ4領域として、学校給食を通して、食育改革を進めています。

ルソーの言葉「教育の原点は、食べることを通して自己保存できる知恵を学ぶこと」を実践すべく、地元で取れる新鮮な食材で安全な給食を提供することを第一条件に生きる力を育み、自己管理能力が身につく食指導をすることが大切だと考えているそうです。

また、地元産米100パーセントを使用し、電気炊飯器をクラスごとに置き、ホカホカのご飯を食べています。

そのことは、生産者の活
 力につながり、まさに相乗
 効果になってお米から始ま
 った『地産地消』は、他の
 食材へも広がりを見せてい
 ます。

厚生文教 常任委員会



研修

REPORT



▶ 廃食用油燃料化施設を視察(京都市)

産業建設 常任委員会

奈良県天理市「水道水源保護条例」の目的は、水道水質にかかる保全や水量の確保と将来にわたり市民の生命と健康を守ることです。

市民や事業者は市が実施する水源保護の施策に協力し、水源が汚染される可能性がある場合には、厳しく制限・処罰をされます。

京都市の「廃食用油燃料化施設」は、地球温暖化防止と循環型社会構築に向け、廃食用油を利用したバイオディーゼル燃料化事業に取り組んでいます。

精製した燃料は、ゴミ収集車、市営バスなどに利用して年間約4千トンもの二酸化炭素を削減しているとのこと。

兵庫県三田市「有限会社マルセ畜産」です。

但馬牛を素牛とした雌牛を中心に約700頭を飼育しています。

三田牛は、肉質もよく地域ブランドを取得しています。